

## 幼児教育長期派遣通信 3学期号

発行 令和7年3月3日

東広島市立下黒瀬小学校 仁井 貴士 派遣園：広島大学附属幼稚園（東広島園舎）

### 1 3学期の研修内容

- (1) 園内研修→保育補助を通して園児の実態把握、つながりの把握、保育者の意図を把握  
園内外環境整備、園行事参加、保育カンファレンスなど  
幼児教育理解に係る研修会・接続に係る研修会  
ESDにかかわる研究、文化多様性にかかわる研究
- (2) 園外研修→他保育所・幼稚園での保育カンファレンス及び研究会参加  
広島大学での学生向け講義 所属校に入学予定園児の実態把握  
所属校のスタートカリキュラム改善会議 東広島市幼保小担当者研修会  
幼保小連携・接続の充実事業 最終報告会 幼児教育長期派遣研修発表会  
広島大学附属三原小学校・広島大学附属幼稚園（三原園舎）との交流  
東広島市立西条小学校との交流 東広島市立龍王小学校幼保小連携会

### 2 研修を通して

1年間の研修がもう少しで終えようとしています。この1年間、一緒に過ごしてきた子供たちの成長を強く感じる日々です。年少、年中、年長の子供たちがそれぞれの発達段階で様々な遊びとかわり合うことを通して、日々、新たな環境や、繰り返し同じ環境と出会い、自分で環境を再構成したり、自ら環境を創り出したりしながら「環境を創り出す力」を付けています。この「環境を創り出す力」は、幼児期から学童期に子供たちが移行する際の環境の変化に対応できる力だと捉えています。この力を幼児期に付けていくことができれば、小学校だけではなく、様々な環境の変化に対して対応していくことができるのだと思います。もちろん、小学校側も「環境」をもう一度考え直し、幼児期に子供たちが培ってきた「環境を創り出す力」を発揮できるような柔軟性や余白を大切にしていくことが求められているのではないかと考えます。

では、この「環境を創り出す力」を意識した生活科の単元や授業について考えてみました。子供たちの幼児期の学びをつなげる小学校の「生活科」が幼保小連携・接続の大きなキーとなっていくと思います。これからの社会に求められている力をもつ子供たちを育てていくために、生活科の価値をもう一度考え直すときでもあるのではないのでしょうか。

## ○遊びのスタイルをつないで体験的に！

今、そしてこれからの社会で求められている力の1つとして「探究」があります。例えば近年起こったコロナ渦の様に未知な状況の中で、自らの知識や技能を活用・発揮しながら、柔軟に対応できる人材こそが、社会で活躍し社会を創っていくことができると考えられています。目の前に広がる未知の状況や問題を解決するために、異なる多様な他者と協働しながら、自らの知識を自在に活用・発揮していくことが期待されていますが、そこでポイントとなるのが「遊び」の力です。なぜなら、遊びの中で他者とかわりながら、自ら挑戦と失敗を繰り返して試行錯誤し、次につなげつつ成長していくような「自由で多様な実体験」があるからです。だからこそ、小学校1年生の学びは、幼児期の遊びのスタイルを残して体験的であることが大切で、自由で多様な実体験がつながり、広がり、学びが深まっていくのだと考えます。

## 【ごっこ遊び】

### 「人」とつながれる環境を創り出す



・1月中旬にホールでジュース屋さんがオープンしていました。年長児の子供たちが大工さんの協力を得ながら自分たちで新しく作った木製の小屋に、手作りの商品を並べ、値付けをしたり看板を付けたりしながらお店が開店していく様子がありました。そこには、年少、年中の子供たちがお客さんとしてやってきて、商品のやりとりを通してつながりが生まれていました。また、このつながりが循環していくことで、各学年で

## 【落ち葉遊び】

### 「もの」の特徴を生かす環境を創り出す



・11月から1月にかけて、落ち葉を使った様々な遊びが行われていました。大量の落ち葉を集めて重ねることで、ベッドを作って横になることを楽しんだり、高いところから跳びおるためのクッションにしたりとふわふわした特徴を生かす環境を創って遊んでいました。また、山から下りる際に落ち葉の上をすべり台の様に滑ったり焚火をしているときに、落ちている落ち葉を燃やすことで白い煙が出るのを楽しんだりする姿も見られました。これも、落ち葉の滑りやすい特徴や、雨が降ると落ち葉に水が浸み込むという特徴を生かした遊びとなっています。

### 3 まとめ（生活科とのつながりを考えて）

「ごっこ遊び」や「落ち葉遊び」のように、幼児期の子供たちは、日々、色々な遊びをしています。そして、遊びを通して環境とかかわりながら、「環境を創る力」を身に付けていっています。

生活科とのつながりを考えると、各生活科の単元に「ごっこ遊び」の遊びのスタイルを加えていくと楽しくなると思っています。例えば、生き物と関わる単元では、子供たちは、〇〇動物園の飼育員になりきって生き物を飼育していき、開園するという目的をもって単元を進めていくと、子供たちが自分たちで環境を創りながら学習を進めていくことができるのではないかと考えます。また、お店屋さんごっこという環境は、生活科だけに留まらず、算数や国語などにもつながっていくことも考えられます。さらに、春夏秋冬の季節を感じ、関わる単元がありますが、生活科の時間の中でだけで季節を感じようと思っても、感じ方の違う子供たちにとっては自分事となりにくいかもしれません。だからこそ、休憩時間や放課後、そして休みの日の子供たちの生活の中での気づきを教室で集めていき、試してみたい！やってみたい！ができる時間と場をつくっていくことで、子供たちが自分たちで環境を創りながら学びを深めていくことができるのではないかと考えます。生活科の内容は、子供たちの通っていた園所の先生方と一緒に考えていくと、子供たちにとって、さらにわくわくする時間となっていくとも考えています。

#### 〈乳幼児教育支援センターより〉

幼児期の学びは、一つ一つが切り離されたものではなく、生活する中で複合的に起こります。だからこそ、子供にとって必要観があり、没頭する学びとなっています。小学校においては、各教科等で学ぶこととなりますが、急に教科として切り分けるのではなく、幼児期に近い学び方となるよう、生活科を中心に合科関連的に授業を構成することで、児童の主体性を引き出しやすく